

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：82105

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K12453

研究課題名（和文）アメリカにおける森林の多面的利用の制度的基盤の解明

研究課題名（英文）Clarification of the Institutional Basis of Multiple Forest Uses in the United States

研究代表者

平野 悠一郎（Hirano, Yuichiro）

国立研究開発法人森林研究・整備機構・森林総合研究所・主任研究員 等

研究者番号：00516338

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：アメリカ東北部の各州において、保全地役権が柔軟な土地権利関係を前提とし、かつトレイル地役権のような派生形を伴って運用されている実態が明らかとなった。また、森林でのレクリエーション利用を前提とした、各種の保障制度が機能してきたこと、及び、公的・民間フォレスター、ランドトラスト、各種のレクリエーション団体が、多様なニーズを効果的に結びつける調整主体としての役割を果たしてきたことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

持続可能な社会構築と多様性の中での共存が求められる今日において、本研究の成果は、森林をめぐる多様な価値や利用を、持続的な観点から公平かつ効率的に調整するための制度のあり方を提示するものである。アメリカ東北部において、森林の多面的利用を前提に土地権利関係、各種保障制度、調整主体の役割が整備されてきた経験は、「森林サービス産業」の発展と林業経営・森林保全との両立を目指す今日の日本等においても、参照すべき重要な先例となる。

研究成果の概要（英文）：This research clarified that (1) conservation easements have been operating as flexible land-use rights of forests with derivative forms such as trail easements, (2) various types of subsidies and security systems have been formed to foster recreational uses of forests, and (3) public and private foresters, land trusts, and various recreational organizations have served as coordinating entities that effectively link diverse needs of forests in the states of the New England area of the United States.

研究分野：森林政策研究

キーワード：多面的利用 レクリエーション 保全地役権 保障制度 調整主体

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

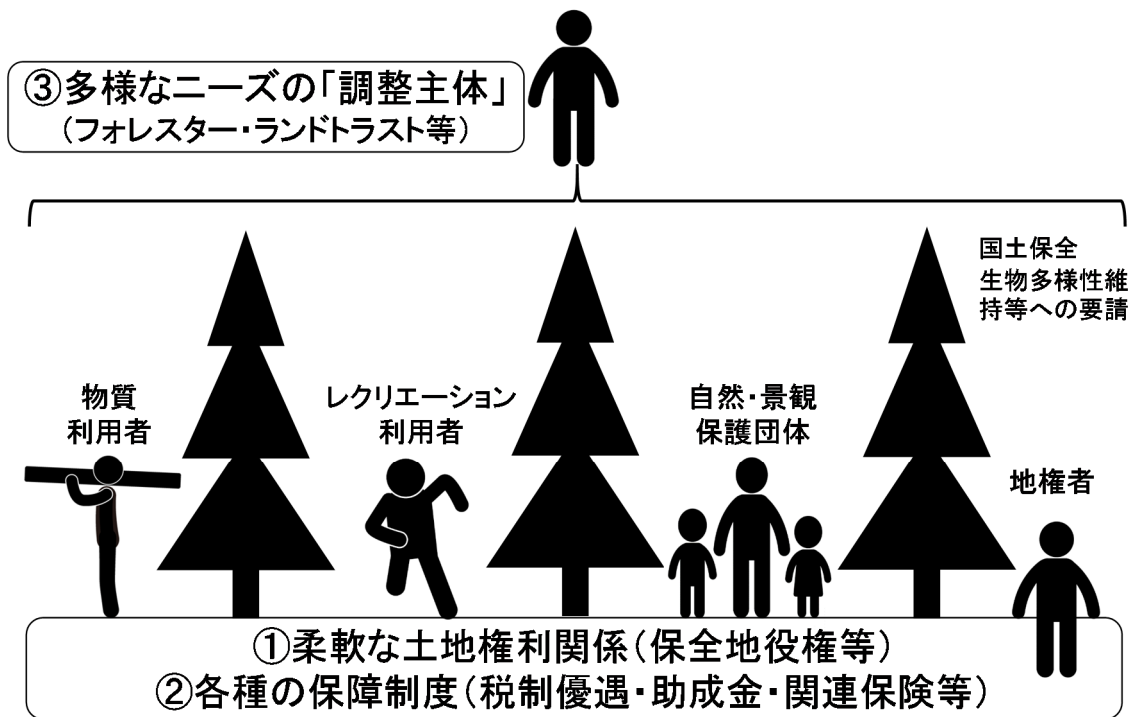
近年の日本では、林業等の物質利用の低迷、山村地域の過疎高齢化を受けて、所有者や地域で維持活用の難しい土地・森林が増加し、各種のレクリエーション利用をめぐるコンフリクトにも悩まされてきた。ところが、1980年代以降のアメリカでは、私有林・公有林を問わず木材生産が継続して行われる中、景観や生態系の保全の取り組み、各種のレクリエーション利用が並行して発展する傾向が見られてきた。

すなわち、近年のアメリカでは、木材生産を中心とした林業経営から、多様なニーズを反映した森林の多面的利用への移行がスムーズに進んだことを示唆していた。このため、「なぜ、どのような制度的基盤を通じて、この移行が可能になったのか」を明らかにすることで、持続的利用の前提の下、多様なニーズ・利用を公平かつ効果的に反映する森林経営の核心的な成立要因が見出せると考えられた。

### 2. 研究の目的

そこで、本研究では、現在のアメリカにおける森林の多面的利用を促す制度的基盤として、土地権利関係、各種の保障制度（税制優遇・助成金・関連保険等）多様なニーズの調整主体に注目し、それぞれの具体的な役割や相互作用を明らかにすることを目的とした。

## 図：アメリカにおける地域の森林の多面的利用 発展を促す制度的基盤



### 3. 研究の方法

当初、3年間の研究期間を想定し、先行文献、関連ウェブサイト、現地行政・研究機関への訪問を通じて合衆国及び各州の関連制度の概要を把握した上で、現地でのインタビュー調査によるそれぞれの具体的な役割の検証を行うこととした。

しかし、新型コロナウイルスへの対応のため、令和2~4年度にかけて、アメリカでの現地調査が難しくなった。このため、当初の予定を変更して、現地調査をアメリカ東部の各州に限定した。また、同期間の日本での現地調査を通じて、森林の多面的利用をめぐる制度的基盤の違いという観点から、アメリカ東部との比較検証を行うこととした。

### 4. 研究成果

アメリカ東部の各州において、保全地役権が柔軟な土地権利関係を前提とし、かつトレイル地役権のような派生形を伴って運用されている実態が明らかとなった。また、森林でのレクリエーション利用を前提とした、各種の保障制度が機能してきたこと、及び、公的・民間フォレスター、ランドトラスト、各種のレクリエーション団体が、多様なニーズを効果的に結びつけ

る調整主体としての役割を果たしてきたことを明らかにした。また、これらの関連制度は、保林地役権の取得・運用に税制優遇措置が紐づけられ、州単位での安全管理責任立法や関連の保険制度が多面的利用と調整を促し、かつそれらの個別制度の運用や関係主体への普及・斡旋を担う行政、公的・民間フォレスター、ランドトラスト、各種のレクリエーション団体に密接な連携が見られる等、各種の制度的基盤が相互に結びつきつつ、森林の多面的利用を支えてきたことが明らかとなった。

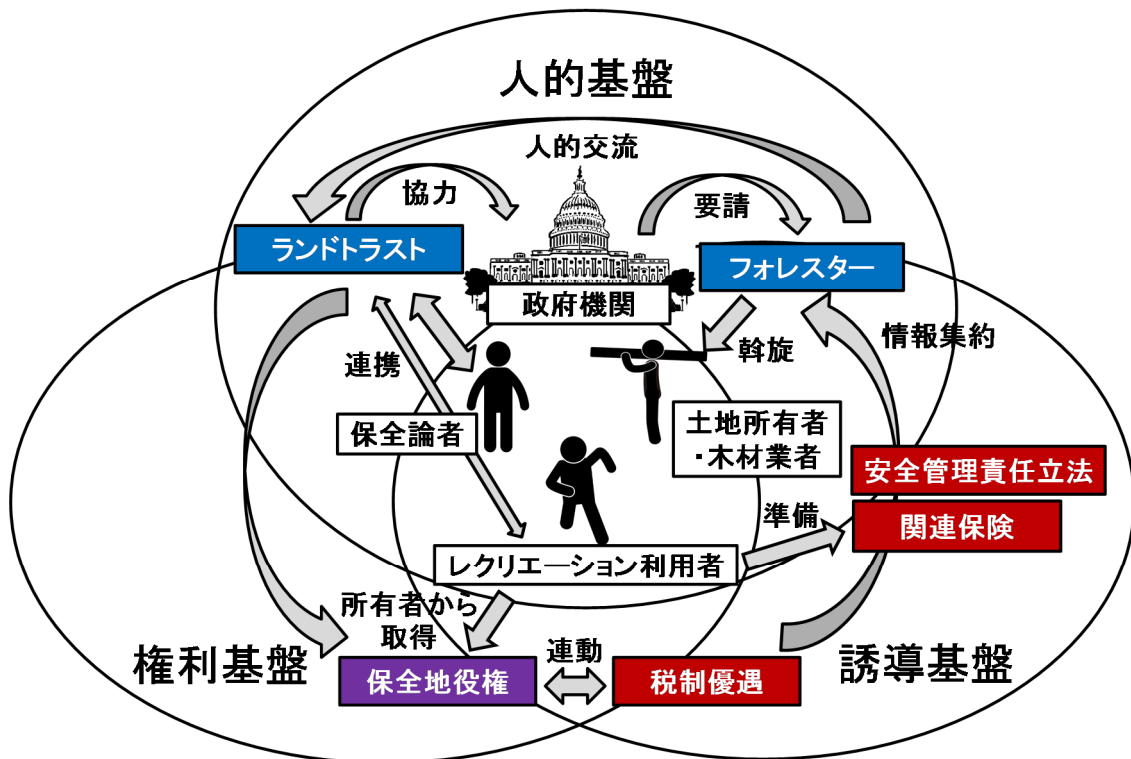


図1:アメリカの森林の多面的利用を支える制度的基盤の相互関連性

一方で、日本においては、マウンテンバイク、フォレストアドベンチャー、キャンプ等の森林でのレクリエーション利用が、森林の有効活用と地域活性化という可能性を踏まえて発展しつつあった。しかし、現状において、アメリカ東北部に見られるような制度的基盤は存在しておらず、各利用を進める主体は、フィールドとしての土地確保、利用の継続保障、そして他の主体のニーズとの調整という面で、より多くのコストとリスクを負うことを前提としている図式が明らかとなった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 平野悠一郎	4. 巻 419
2. 論文標題 森林でのマウンテンバイク：フォレストバイクの事例から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 森林レクリエーション	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuichiro Hirano	4. 巻 Springer
2. 論文標題 Forests to Revitalize Local Community; Adaptive Contribution Projects for Legitimacy by Mountain Bikers	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Adaptive Participatory Environmental Governance in Japan: Local Experiences, Global Lessons	6. 最初と最後の頁 33-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 平野悠一郎・野間大介・武正憲	4. 巻 85(5)
2. 論文標題 マウンテンバイカーの野外フィールドへの価値認識と地域貢献活動への志向	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ランドスケープ研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野悠一郎	4. 巻 102
2. 論文標題 冒険型パークによる森林利用の新展開：フォレストアドベンチャーを事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本森林学会誌	6. 最初と最後の頁 358-367
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4005/jjfs.102.358	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平野悠一郎	4. 巻 1635
2. 論文標題 森林利用の新たな展開：森林をめぐる価値の多様化に向き合うには	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山林	6. 最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平野悠一郎	4. 巻 945
2. 論文標題 新たな森林空間利用を考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 森林技術	6. 最初と最後の頁 2-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野悠一郎	4. 巻 36
2. 論文標題 登山道は誰のものか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 登山研修	6. 最初と最後の頁 87-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 平野悠一郎・野間大介・武正憲
2. 発表標題 マウンテンバイカーの野外フィールドへの価値認識と地域貢献活動への志向
3. 学会等名 2022年日本造園学会全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平野悠一郎
2. 発表標題 冒険型パークによる森林利用の新展開：フォレストアドベンチャーを事例に
3. 学会等名 第131回日本森林学会大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 平野悠一郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 辰巳出版	5. 総ページ数 144
3. 書名 マウンテンバイカーズ白書	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------